

東家・荒	
配牌	二島 ト島 ハイドロ ハイドロ ハイドロ 東 南 落
ツモ	↓ 東 ハイドロ ハイドロ ハイドロ 九島 ↓ 東
捨牌	南 二島 落 ☆☆☆ 内 落 ☆☆☆ ハイドロ ハイドロ ハイドロ 中
最終形	ト島 八島 九島 東 東 東 東
	+26,300 +12,000 2,000(R) 40,300
南家・綾辻	
配牌	二島 正島 八島 ハイドロ ハイドロ 南 北 北 落
ツモ	四島 中 ↓ 中 ハイドロ 六島 ↓ 東
捨牌	八島 南 二島 四島 ☆☆☆ 六島 落 三島 二島 南 九島
最終形	正島 压島 六島 六島 東 東 落 中 中
	△25,000 △4,000 1,000(R) 20,000
西家・飯島	
配牌	三島 三島 四島 ト島 ハイドロ 西 光
ツモ	八島 W M ↓ H I ↓ 東 ↓ H I ↓ 四島 ↓ H I ↓ 三島 正島
捨牌	W M H I H I 西 北 三島 三島 一島 落
最終形	三島 四島 正島 七島 八島 東
	△25,000 △4,000 21,000
北家・加藤	
配牌	一島 一島 六島 ト島 ハイドロ
ツモ	W M ↓ H I ↓ H I ↓ H I ↓ 南 ↓ H I ↓ 八島 ↓ H I ↓
捨牌	W M H I H I 北 一島 一島 一島 落
最終形	六島 ト島 八島
	△23,700 △4,000 1,000(R) 18,700

表の飯島哲也、プロ連盟の加藤勝久、決勝は、作家の綾辻行人、読者民

ソウ あつた。こんな和了りをした後は、ツキの風が吹くに決まっている。同2本場も親満ツモでこの回トツブ。決勝への切符を手に入れたので

ソウ あつた。これにはビックリ。さらにビックくりしたことは、次巡三島をツモつてしまつたのだ。こんな和了りをした後は、ツキの風が吹くに決まっている。

押す時には押し、引くときには引く荒流麻雀を貫いての優勝。まさに最強位の名にふさわしい戦いぶりであった。

荒ちゃん、本当におめでとう。これからも頑張ってください。

(文中・キャプション敬称略)

# プロの誇りを堅持。見事!! 荒正義!!

今回の最強戦はプロ対アマを全面に押し出し、ここでプロ側が敗れるようなことがあれば、プロ否定されるのである。勝ってなんぼがプロの世界なのだ。

その事の重大さを今回プロ10人は、どこまで認識して出場してきた

のであろうか。

おそらく荒正義が一番プロの誇りと意地を背負っていたのではないかと思う。

なぜなら彼には帰るところがない。この先死ぬまで麻雀のプロ

として生き続けるしかないのだから。

そんな彼だからこそ、どん底の状態でもあせらず、辛抱強く打つことができ、自分の麻雀を曲げないので

彼に勝因は、と聞くと予選4回戦

東場の親で和了った満貫かな、と言つた。この時、持ち点13000と

いうラス目で、今までのトータルは+30+8。ここでラスを食えば、

当然決勝進出はあきらめなければな

らない。

ダブ東ポンした荒の手牌は、対連荘しなければならない荒のツモは四島。これを強打。次のツモはアンカンのリンシャンから無スジ

ここに對面からリーチが入つた。絶対連荘しなければならない荒のツモは四島。これを強打。次のツモはアンカンのリンシャンから無スジ

# 安藤勝満の眼



そして荒正義の4人で行われた。

東1局は加藤から荒が13000を

和了り、迎えた荒の親で決定打が出た。(全体牌譜参照) まず8巡目に南家綾辻がチートイツのツモマチでリーチ。

それを受け北家加藤が、

家綾辻がチートイツのツモマチでリーチ。

この手牌にツモをツモリ打一島と、ギターをバックに入れてしまつた。

これが決勝経験のない悲しさ、未熟さなのだ。今まで負けてもともと、という開き直りで前に出て勝ち上がってきたのだが、この半荘トツブを取れば優勝と、手の届く位置にきた瞬間、欲が出たのである。

せっかくのチャンス手、ここは歯を食いしばつて前に出なければならぬ。こんなところで引いてるようでは、決して女神は微笑まない。

それに比べ、荒は無スジのW Mそし

してドラのツモまで切り飛ばして親満をもぎ取り、優勝までもぎ取つてしまつた。

押す時には押し、引くときには引

く荒流麻雀を貫いての優勝。まさに最強位の名にふさわしい戦いぶりであつた。

荒ちゃん、本当におめでとう。こ

